

「農村コミュニティ強化アクションプラン」に係る
府民意見の要旨及びこれに対する府の考え方

項目	意見の要旨	府の考え方
プラン全体	○従来の取組との違いが分かりづらく、様々な名称の人や組織が増えると地域が混乱するのではないかと。	□御意見を踏まえ、「命の里」に取り組む地域においては、従来の取組との選択ができる仕組みを検討してまいります。
	○特定の地域や集落だけではなく、様々な地域や集落が取り組めるような工夫をしてほしい。	□御意見を踏まえ、従来の「命の里」事業実施地区だけでなく、過疎高齢化集落を含む地域が広く対象となるよう、制度を検討してまいります。
	○農村コミュニティの存続が難しくなっている現状から、各関係機関の協力を得ることが必要であるとともに、京都らしさをいかした活動の実現が理想。	□御意見のとおり、近隣に多くの企業や大学が立地し、多様な人材が存在している京都の強みをいかし、市町村とも連携して、「農村コミュニティ推進組織」を支援することを記載しています。
	○農村地域・集落を守ることは、都市住民にとっても大切なことであり、過疎化が加速している今、早めの力強い支援をお願いしたい。	□御意見を踏まえ、本プランに基づく施策の具体化と早急な実施に努めてまいります。
	○短期の山村留学など、小中学生が気軽に田舎の生活を体験できるようにしてはどうか	□御意見を踏まえ、施策の実施にあたっては、多様な主体が参画しやすい仕組みを検討してまいります。
	○農村地域が活性化する取組みだと思う。今の子ども達は田舎がない子も多く、自然の中で遊ぶことが減っており、そういう子ども達も遊びに行けるような施設等あればと思う。	□御意見のとおり、子どもたちの農村での自然体験は非常に重要であり、今後も取組みを行う地域を支援していくこととします。

項目	意見の要旨	府の考え方
プラン全体	<p>○地域の維持・活性化も必要だが、人口減少の中で全てを維持するのではなく、あきらめることは何かを明確にするため、地域の「終活」を考えることも必要ではないか。</p>	<p>□御指摘の面も含め、各地域の将来像は、当該地域においてしっかり話し合っていたことが何より重要だと考えますが、本プランでは、食料供給のみならず防災機能の発揮などで府民生活を支える農村の存続が危ぶまれる中、その維持・発展に取り組もうとする地域を支える視点で策定するものです。</p>
	<p>○今後、農業はAIやIoTの発展により、省力化とともに、生産性向上も見込まれる。企業が収益事業を行う主体として参入しやすいように特区申請を行い、地域の強み（特産品）をいかした農業経営をすることで、雇用を生み出す必要があるのではないか。</p>	<p>□御意見の通り、農村集落の担い手が減少する中、生産性向上に資するICT等の新技術の導入は重要であり、本プランでも具体の施策を記載し、積極的に取り組む考えです。</p> <p>□また、本プランに基づく地域独自の強みを生かした「なりわい」の創出支援とともに、引き続き農業生産や6次産業化等への支援を講じることで、地域に雇用と賑わいを創出してまいります。</p>
	<p>○「命の里」事業は継続して欲しい。公共員の数が少ないと思う。</p>	<p>□御意見については、本プランで掲げているとおり、持続的かつ自立的な組織体制の構築とあわせ、組織の活動支援や「命の里」事業で実施してきた「里の公共員」など農村への人的支援についても検討しているところです。</p>
<p>問題意識 1 背景</p>	<p>○過疎・高齢化集落が直近5年で倍増した要因や京都府の傾向をしっかりと分析することが必要。</p>	<p>□御意見も踏まえ、本プランに基づく施策の具体化に当たってはしっかりと現状分析を行い、制度を検討してまいります。</p>

項目	意見の要旨	府の考え方
	<p>○農村地域には日本の未来へのヒントがたくさん眠っています。課題解決だけでなく、未来づくりに向けた技術導入を、小さな地域でこそ実験的に実施できればと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・モデルコミュニティ構築 ・働き方改革、新しい働き方 ・ドローンを使ったスマート物流改革 <p>など都市部の課題解決に向けた地域での模索も地域、都市部共に元気になれる施策だと思う。</p>	<p>□本プランは、農村部が特に都市部に先駆けて人口減少や過疎・高齢集落の増加等が深刻なことを踏まえて策定しており、御意見の点については、持続的なコミュニティ組織体制の構築、生産性向上に資する ICT 等の新技術の導入等を進めることとしています。</p>
<p>新規施策（制度）のスキーム（全体）</p>	<p>○新たな農村コミュニティーづくりについて</p> <p>農村コミュニティーの原点は「集落への愛着と人の確保」であり、農山村を維持するために必要なのは「地域住民の意欲、就労の場（定住・移住）、Uターン、週末帰農、地域外人材の活用と情報発信」。</p> <p>他地域の成功事例を参考に、地域での就労の場、移住情報、求める人材などをパッケージで情報発信・交流することが必要。また、命の里などの地域に応じた小さな取組から地元出身者や地域外人材を巻き込み発展することや、市町村や府による地域での細かい受け入れ対策、一步踏み出すきっかけとなる支援策が必要。</p>	<p>□御意見のとおり、本プランでは、「命の里」事業の成果等を踏まえ、他県の先進的な活動地域も参考としながら、地域全体で危機感や現状認識を共有し、住民自ら課題に取り組む意識を醸成するとともに、地域外の者も含め、多様な組織・人材を取り込みながら活動を展開するための支援策について検討しています。</p>

項目	意見の要旨	府の考え方
<p>めざす農村集落の姿</p> <p>(1) 地域の課題やポテンシャルを踏まえた、地域の方向性を示すビジョンの策定</p>	<p>○地域の女性が参加しやすい仕組みを作ることが重要。</p>	<p>□御意見のとおり、ビジョンの作成にあたっては、女性や若者の参画が重要であると考えており、本プランの中でも地域の役割として位置付けています。</p> <p>□御意見を踏まえ、施策の実施にあたっては、多様な主体が参画しやすい仕組みを検討してまいります。</p>
	<p>○わかりやすく夢のあるビジョンの作成を希望する。会議には女性・若者の参加が望ましいが、現状では難しいため、ビジョンを作成する際の会議の望ましい構成例を示すのはいかがでしょうか。</p>	
<p>めざす農村集落の姿</p> <p>(2) 事業計画を企画・実行する「農村コミュニティ推進組織」の構築</p>	<p>○農村地域は、昔ながらのお互い様精神、コミュニティの原型をとどめており、これからの日本の未来を示唆する理想（モデルコミュニティ）が眠っている。その良さを失わないためにも、都市部の成功モデルを無理に農村部に押しつけるのではなく、都市の良さを地域が学び、地域の良さを都市が学ぶ、双方が対等の関係が築ける連携協働型農村コミュニティ（お互い様）アクションプランが描けるように願っている。</p> <p>○補助金依存に陥らないため、実施と評価がセットで回っている仕組みづくりが必要。また、2回の「なりわい」事業は、自立運営が可能なものだけが残るのでよいのではないかと。</p>	<p>□御意見のとおり、本プランでは地域が持続的かつ自立的に継続していくことを目的としており、施策の具体化にあたっては、地域ごとの実績を踏まえつつ、一定の期間に集中的に支援していく仕組みを検討してまいります。</p>

項目	意見の要旨	府の考え方
<p>めざす農村集落の姿 (2)事業計画を企画・実行する「農村コミュニティ推進組織」の構築</p>	<p>○組織の円滑な運営には、組織を引っ張り責任を持つ「リーダー」、内外をつなぐ「コーディネーター」、内外から支援する「サポーター」が欠かせない要素だと思う。また、公共員は、仕組みづくりのほかに、情報の発信・受信、交流など、内外をつなぐ「コーディネーター」としての役割も重要。リーダーもコーディネーターも、地域地域に適正に配置するには数が必要で、育成、継承が鍵になると思う。「リーダー」「コーディネーター」「サポーター」育成、継承の施策は引き続き重点的にお願いしたい。</p>	<p>□組織の人材確保・育成は農村地域の重要な課題であり、御意見を踏まえ、本プランの中でも行政、農村コミュニティ協働支援センターの役割として記載いたしました。</p>
<p>めざす農村集落の姿 (3)地域外の組織と協働する「農村応援隊協定」の締結</p>	<p>○大学や留学生、外国人観光客が多い京都の強みをいかした、具体的な取組みを検討してほしい。</p> <p>○農村応援隊の取組は、担い手不足の補完として大変期待ができる。国民の平均寿命、健康寿命が伸びる中、65歳定年後10年から20年は農村を支援する力があり、ボランティア意識が高い層が多く、人材の組織化や農作業に協力してもらうことも有効だと考えられる。</p>	<p>□御意見を踏まえ、近隣に多くの企業や大学が立地し、多様な人材が存在している京都の強みをいかし、多様な地域外人材を地域に取り込むことができるよう「農村コミュニティ協働支援センター」の仕組みを記載いたしました。</p> <p>□「農村応援隊」については、企業、NPO、大学等の組織に、地域の担い手として様々な地域活動に参画してもらうことを考えており、御意見のような各組織におけるOB・OGの活用も含め、意欲ある人材を掘り起こし、連携していきたいと考えています。</p>

項目	意見の要旨	府の考え方
<p>めざす農村集落の姿</p> <p>(4) 地域コミュニティの一員となる地域外住民「参加型住民(仮)」の取り込み</p>	<p>○地域の構成員として、人材が不足している中、地域の活性化のため、域外からの参加者が、地元の人と一緒に地域行事や農作業、新しい商品づくり、観光商品づくり等に関わってもらえるような仕組みづくり、支援策が必要だと思う。</p>	<p>□御意見も踏まえ、本プランで掲げている地域外の「参加型住民」の参画を促すための支援を検討しています。</p>